

世界の品質を“包装”で守る

ゼネラルパッカー通信

Investors' Guide

2025年7月期(第64期)
[2024.08.01→2025.07.31]



包装システムのトータルプランナー


ゼネラルパッカー株式会社

証券コード 6267

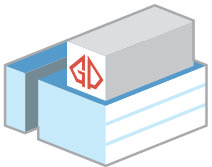
社 是 創造と挑戦 ―感ずる、信ずる、行動する―

経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。



当社




包装機械

各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売

- ・当社主力の包装技術
- ・ガス充填包装
- ・チャック付スタンドパウチ包装


生産機械

食品製菓機械の製造・販売

オサ機械株式会社  Since 1932

当社グループのお客様

工場



主要ユーザー

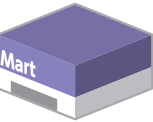
食品分野

医薬品分野

化学分野

その他

店舗



食品分野

キャンディ	ナッツ類	お米・米菓
パン粉	小麦粉	ドリップコーヒー
花かつお	お茶	チョコレート
ふりかけ	かち割り氷	健康食品


化学分野

粉末洗剤
肥料

その他

ペットフード
野菜・花の種

病院



医薬品分野

輸液パック
カテーテル
粉末薬品

魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち1/3が開発部及び技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。また、オサ機械はチョコレート製造機械分野で高いシェアを誇っています。

魅力4 新規分野・海外分野への成長

新規分野の開拓による事業領域の拡大と海外マーケットでの成長を続けています。

魅力5 安定した株主還元

連結配当性向30%または連結純資産配当率(DOE)3%を目安に、安定配当を続けています。

[▶P4へ](#)



売上高は2期連続の増収となり、過去最高を更新。

第7次中期経営計画最終年度に向けて
グローバル展開の加速と
事業領域の拡大を
目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに当社第64期(2024年8月1日から2025年7月31日まで)の営業状況をご報告させていただきます。
ご一読の上、当社事業へのご理解とともに、今後の成長に一層ご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 牧野 研二

2025年7月期の決算概況

2025年7月期決算は、売上高10,108百万円(前期比2.6%増)、営業利益1,073百万円(前期比7.4%増)、経常利益1,067百万円(前期比4.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益799百万円(前期比10.9%増)となりました。売上高は業績予想数値、前期実績ともに上回り、過去最高の売上高となりました。

一方で利益につきましても、増収効果により、売上総利益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益いずれも

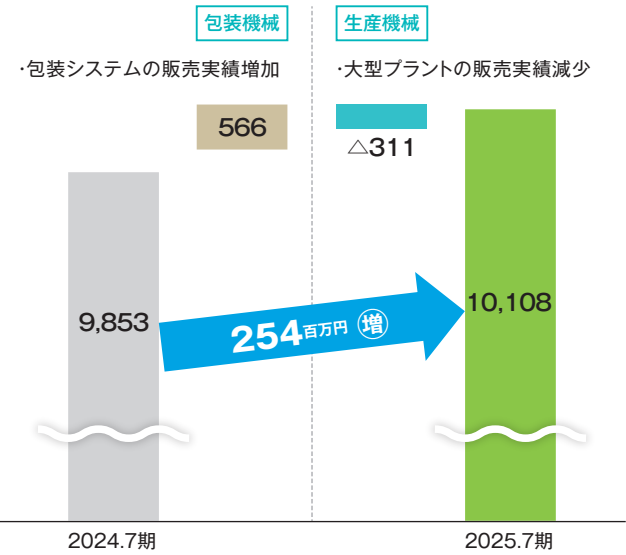
前期に比べ、増益となりました。

全体の売上高は254百万円の増収となりました。事業別の主な要因ですが、包装機械事業では、包装システムの販売実績が増加したことに伴い566百万円の増収となった一方、生産機械事業では大型プラントの販売実績が減少したことに伴い311百万円の減収となりました。

営業利益は全体で73百万円の増益となりました。包装機械事業では、増収による効果により99百万円の増益となった一方、生産機械事業では25百万円の減益となりました。

売上高
 増減要因

(単位:百万円)

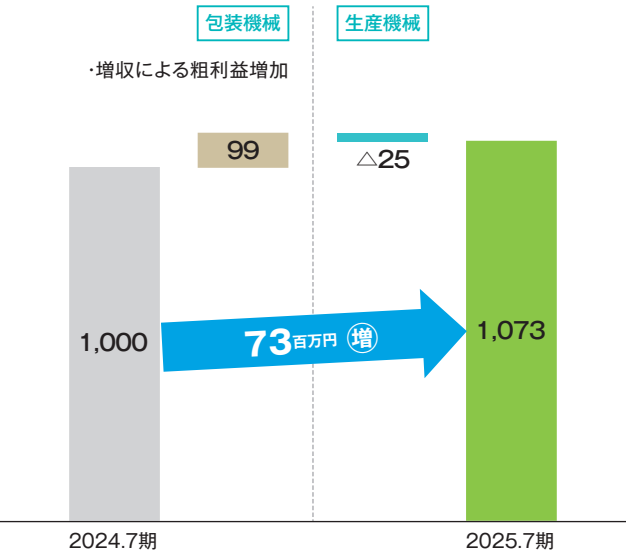


第7次中期経営計画の取り組みについて

第7次中期経営計画（2024年7月期～2026年7月期）では、「グループ一体での飛躍的成長に向けた基盤整備の時期」と位置づけ、グローバル市場での売上高比率40%以上の実現と事業領域の拡大を重要課題として取り組みを行っております。
 「飛躍的成長に向けたグローバル展開の加速と事業領域の拡大を目指す」を基本戦略とし、「顧客ニーズへの対応力強化と課題解決型営業の実践」を販売戦略の中心として、国内市場では主力商品のさらなる拡販により安定的な収益を確保しつつ、ワンストップで応えるソリューションビジネスの拡大、省人化や環境配慮への対応を進めるとともに、グローバル市場においては、3極（中華圏・欧米・ASEAN）での販売体制を強化することでグローバル市場売上高比率40%以上の達成に向けて取り組んでまいりました。

営業利益
 増減要因

(単位:百万円)



国内市場において、包装機械事業では包装システムの販売実績が増加したことにより国内市場の売上高は前期から増収となりました。一方で生産機械事業では、大型プラントの販売実績が減少したことにより国内市場の売上高は前期から減収となりました。国内市場は前期より増収という結果となりましたが、主力商品のさらなる拡販により受注を獲得し、安定的収益の確保に努めてまいります。
 海外事業においてはグローバル市場の売上高比率40%以上を目指して、海外での販売体制の強化を進めてまいりました。しかし、国内売上高が伸長したことや、2025年7月期上期の海外売上高が伸び悩んだことにより2025年7月期年間のグローバル市場売上高比率は26.6%となりました。
 目標としていた40%以上の達成とはなりませんでした。新たな販売代理店の開拓や海外営業部の増員を行うことで拡販に努め、

中期経営計画最終年度である2026年7月期では数値目標を達成できるよう取り組みを強化してまいります。

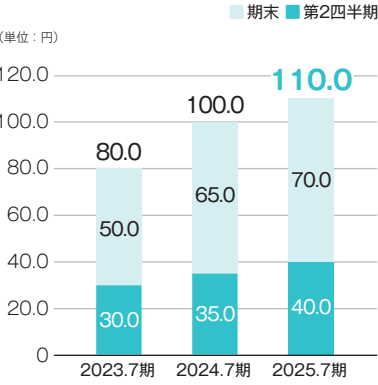
2026年7月期の見通し

2026年7月期の業績見通しについては売上高11,000百万円（前期比8.8%増）、営業利益1,095百万円（前期比2.0%増）、経常利益1,100百万円（前期比3.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益770百万円（前期比3.7%減）を予定しています。
 売上高につきましては、顧客の設備投資需要が引き続き堅調に推移し受注残高は前年から増加していることに加え、国内外での積極的な販売活動の展開による受注確保を計画していることから、前期から増収を見込んでおります。
 利益については、国内外での展示会出展や人的資本への投資強化による販売費及び一般管理費の増加を想定しているものの、増収効果により、営業利益、経常利益で前期から増益を見込んで

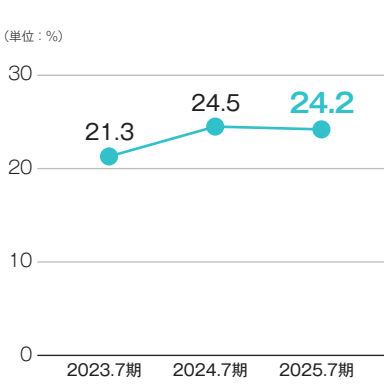
株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、連結配当性向30%または連結純資産配当率（DOE）3%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

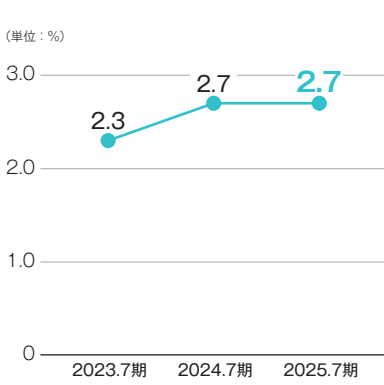
1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率（DOE）

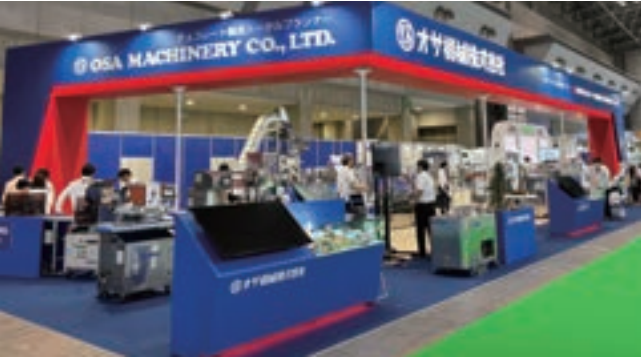
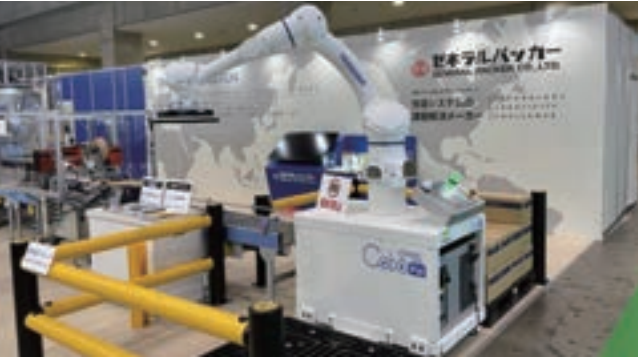


特集 1 FOOMA JAPAN 2025に出展いたしました

2025年6月10日～13日まで、食品製造の大規模総合展「FOOMA JAPAN 2025 (国際食品工業展)」が東京ビッグサイトで開催されました。

当社とグループ会社のオサ機械株式会社が共同で出展し、給袋自動包装機GP-M3000UST型特別仕様機を中心に『ワンストップソリューション』をテーマとした包装ラインの展示を行いました。

これらの製品を用いた最適なソリューションを提供することで、お客様が抱える課題の解決に貢献してまいります。

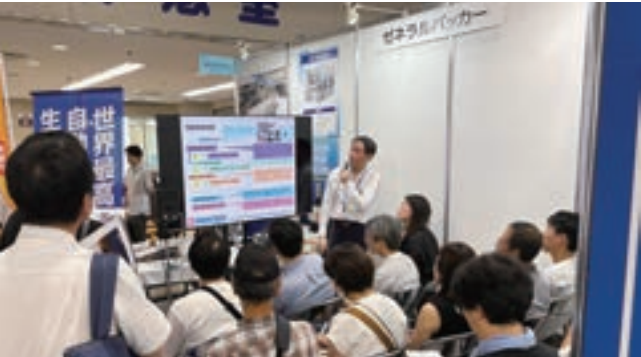


特集 2 名証IR EXPO2025に出展いたしました

2025年9月5日～6日にかけて株式会社名古屋証券取引所主催の「名証IR EXPO 2025」が愛知県名古屋市の吹上ホールにて開催されました。

本イベントには初出展となりましたが、2日間で合計168名の投資家の皆様にお越しいただき、当社の事業内容や成長戦略についてご理解を深めていただきました。

今後も積極的なIR活動を通じて、企業価値のさらなる向上に努めてまいります。



新任社外取締役のご紹介

Kouji Kojima

小島 浩司

よりメッセージ



Q1

これまでのご経歴を踏まえ、コーポレート・ガバナンス強化にどのような貢献を考えておられますか？

A 私は公認会計士として東京と名古屋にて税理士法人と監査法人で業務を行ってまいりました。これまでの30年間、様々な会社とお付き合いをさせていただいてきましたが、投資家からの目線、経営者や社員の意識、ともに大きく変わってきたことを実感しています。コーポレート・ガバナンスの最終的な目的は、企業が永続的に成長し、その価値を高めていくことにありと考えています。そのために、これまでの業務で得た経験・ノウハウを少しでも当社に還元していければと考えております。

Q2

株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A この度はご選任いただき、ありがとうございます。ご縁あってこのような職務を拝命しました。当社の強みは社内全員が強く連携し、何ごとにも正面からしっかり取り組むことであると感じています。そのような当社の良さを損なうことなく、さらなる高みへの成長への一助となれるよう、これまでの経験をフルに活かし尽力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

【経歴】

1996年 10月	太田昭和監査法人 (現:EY新日本有限責任監査法人) 入所
2000年 7月	公認会計士登録
2001年 7月	公認会計士小島興一事務所 (現:税理士法人中央総研) 入所
2001年 10月	税理士登録
2003年 1月	税理士法人中央総研 代表社員
2004年 3月	監査法人東海会計社 代表社員 (現任)
2018年 6月	ワシントンホテル㈱取締役 (監査等委員) (現任)
2019年 7月	㈱ヤガミ取締役 (監査等委員) (現任)

Masanori Andou

安藤 雅範

よりメッセージ



Q1

これまでのご経歴を踏まえ、コーポレート・ガバナンス強化にどのような貢献を考えておられますか？

A 私はこれまで弁護士として様々な業種の法人や個人からのご相談を受け、必要に応じて代理人として交渉や裁判等に携わる中で、多種多様な立場や意見に接してきました。また、他社の社外取締役や社外監査役の経験もございます。これらの経験を活かし、当社が多様な意見の自由な交換を通じて合理的な意思決定ができるよう尽力したいと考えております。

Q2

株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A このたび監査等委員である取締役に就任いたしました安藤雅範と申します。これまで弁護士や社外役員として培ってきた知識と経験を活かし、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、法令等遵守とガバナンスの強化に努めます。誠心誠意取り組んでまいりますので、株主の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

【経歴】

1998年 4月	名古屋弁護士会 (現:愛知県弁護士会) 登録
2016年 4月	愛知県弁護士会 副会長

経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度におけるわが国経済は、一部に足踏みが残るものの、企業収益や雇用・所得環境の改善が進み、景気は緩やかな回復基調が続きました。一方で、関税をはじめとする米国通商政策の不確実性の高まり、ロシア・ウクライナ情勢や緊迫化する中東情勢などの地政学リスクの長期化、円安によるエネルギー価格・原材料価格の高騰、中国経済の持ち直しの遅れなど、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社グループは「グループ一体での飛躍的成長に向けた基盤整備の時期」と位置づけた第7次中期経営計画（2024年7月期～2026年7月期）で掲げた基本戦略の一層の推進を図るべく、グローバル展開の加速と事業領域の拡大を重要課題として、取り組みを強化してまいりました。

当連結会計年度における売上高は、生産機械事業における大型プラントの販売実績が減少したものの、包装機械事業における包装

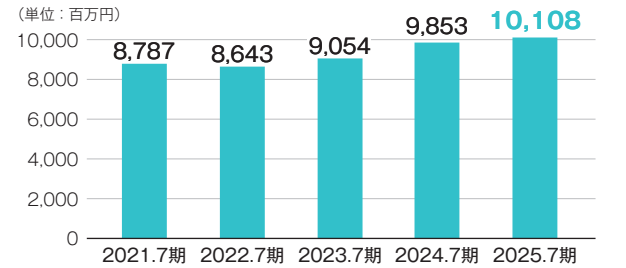
システムの販売実績が増加したこと等に伴い、前連結会計年度に比べ254百万円の増収となり、過去最高の売上高となりました。利益につきましては、人的資本への投資強化により販売費及び一般管理費が増加したものの、増収効果により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも前連結会計年度に比べ増益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高10,108百万円（前期比2.6%増）、営業利益は1,073百万円（前期比7.4%増）、経常利益は1,067百万円（前期比4.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は799百万円（前期比10.9%増）となりました。

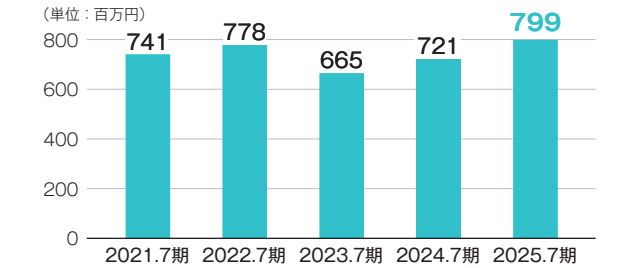
セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

包装機械事業は包装システムの販売実績が増加したこと等に伴い、売上高は9,107百万円、営業利益は1,051百万円となりました。また、生産機械事業は、売上高は1,001百万円、営業利益は21百万円となりました。

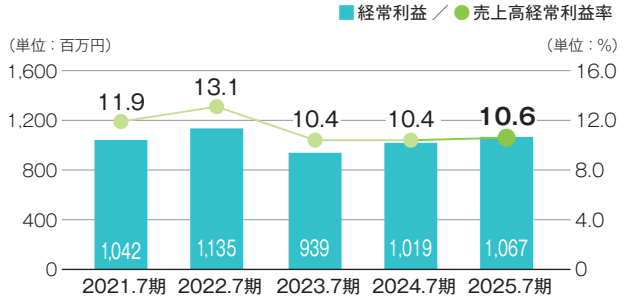
売上高



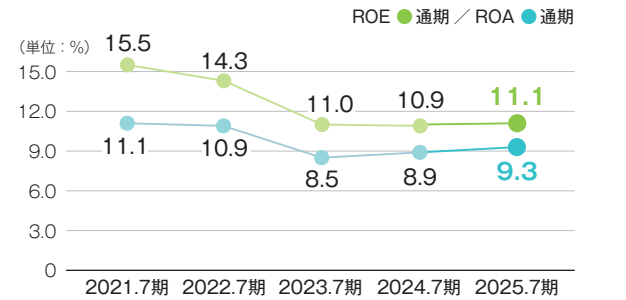
親会社株主に帰属する当期純利益



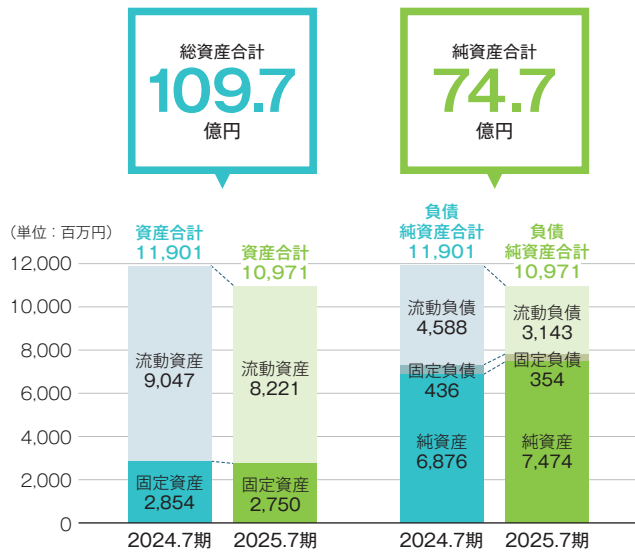
経常利益／売上高経常利益率



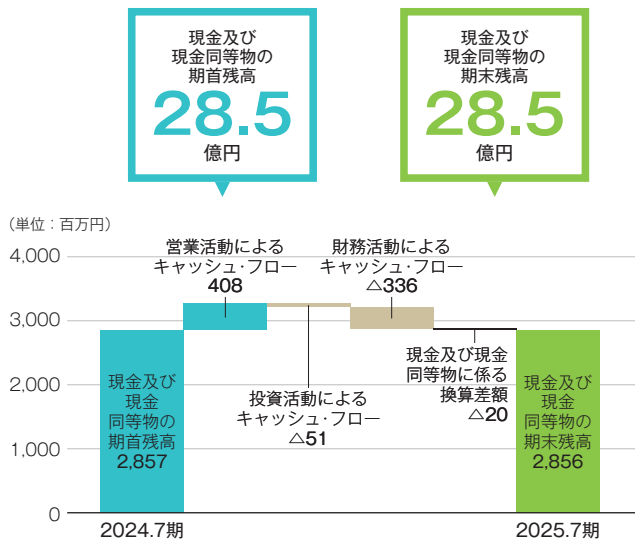
ROE／ROA



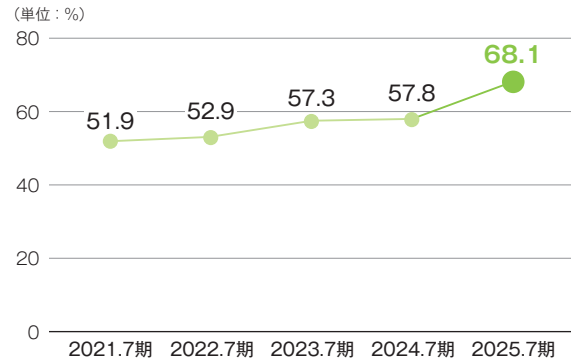
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当連結会計年度末における資産合計が減少した主な要因は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が762百万円、棚卸資産が80百万円、無形固定資産が67百万円それぞれ減少したことであります。負債合計が減少した主な要因は、仕入債務が1,267百万円、長期借入金（1年内返済予定含む）が146百万円、未払法人税等が77百万円それぞれ減少したことであります。純資産合計が増加した主な要因は、利益剰余金610百万円の増加であります。

キャッシュ・フロー分析

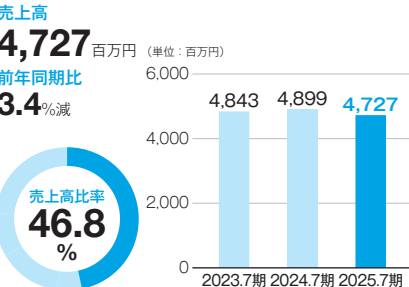
営業活動の結果得られた資金は408百万円（前期比64.3%減）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前当期純利益1,067百万円、売上債権の減少額765百万円等であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額1,251百万円、法人税等の支払額346百万円等であります。投資活動の結果使用した資金は51百万円（前期比64.3%減）となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出16百万円、無形固定資産の取得による支出14百万円等であります。財務活動の結果使用した資金は336百万円（前期比2.3%減）となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額187百万円、長期借入金の返済による支出146百万円等であります。

包装機械

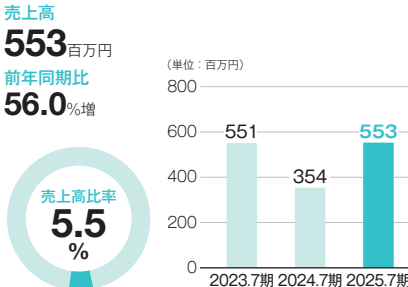
包装機械事業につきましては、包装システムの販売実績が増加したこと等に伴い、売上高は9,107百万円(前期比6.6%増)となりました。利益につきましては、人的資本への投資強化により販売費及び一般管理費が増加したものの、増収効果により、営業利益は1,051百万円(前期比10.4%増)となりました。



給袋自動包装機(ガス充填自動包装機含む)



製袋自動包装機



包装関連機器等

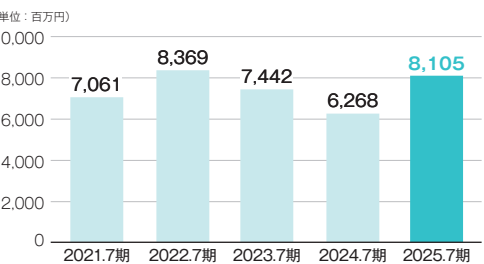


生産機械

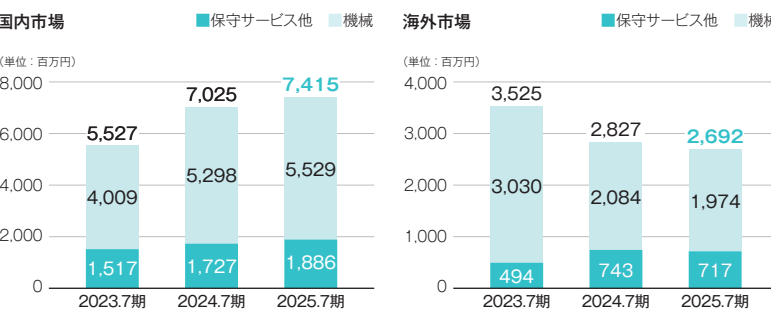
生産機械事業につきましては、大型プラントの販売実績の減少に伴い、売上高は1,001百万円(前期比24.4%減)、営業利益は21百万円(前期比54.4%減)となりました。



機械受注高



エンドユーザー国内・海外売上高(包装機械・生産機械合計)



会社概要

商 号	ゼネラルパッカー株式会社
英 文 社 名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設 立	1961年12月
資 本 金	2億5,157万7千円
事 業 内 容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、食品製菓機械の製造・販売
従 業 員 数	215名(連結) 175名(単体)
本 社 ・ 工 場	〒481-8601 愛知県北名古屋市府寺神明65番地 TEL. (0568) 23-3111 (代) FAX. (0568) 22-3222
東 京 営 業 部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-8 KDX神田北口ビル4F TEL. (03) 3256-3891 (代) FAX. (03) 3256-3893
子 会 社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装机械有限公司 General Packer America Corporation
関 連 会 社	錦通日技包装科技(江蘇)有限公司

(2025年7月31日現在)

役 員

代 表 取 締 役 社 長	牧 野 研 二
常 務 取 締 役	水 野 智 之
取 締 役	安 藤 正 行
取 締 役	塚 本 真 也 オサ機械(株) 取締役会長
取 締 役	杉 田 篤 紀 オサ機械(株) 代表取締役
社外取締役(監査等委員)	久 野 浩 介
社外取締役(監査等委員)	森 田 卓 寿
社外取締役(監査等委員)	井 上 理 津 子
社外取締役(監査等委員)	小 島 浩 司
社外取締役(監査等委員)	安 藤 雅 範

(2025年10月24日現在)

株式の状況

発 行 可 能 株 式 総 数	5,600,000株
発 行 済 株 式 総 数	1,798,800株
株 主 数	1,082名

(2025年7月31日現在)

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社FAMS	270,000	15.05
ゼネラルパッカー従業員持株会	222,500	12.40
株式会社りそな銀行	78,400	4.37
田中 かな	67,900	3.78
ゼネラルパッカー取引先持株会	57,800	3.22
梅森 輝信	53,700	2.99
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	50,654	2.82
MSIP CLIENT SECURITIES	47,400	2.64
島末 孝法	39,200	2.18
鈴木 完繁	30,364	1.68

(2025年7月31日現在)

株主数構成比



株式数構成比



IRサイトでも、詳しい情報を提供しています

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

当社サイトは、日興アイ・アール株式会社の「2024年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」にて、スタンダード市場部門 優秀サイトに選ばれました。(https://www.nikkoir.co.jp/)

▼トップページ



▼IRページ



主なコンテンツ

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 経営方針・戦略 | 当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR情報などをご覧いただけます。 |
| 決算・IR資料室 | アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。 |



個人投資家の皆さまへ

業務内容や特徴、業界情報、配当についてわかりやすく解説しています。

<https://www.general-packer.co.jp/ir/>

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで		
定時株主総会	10月		
基準日	定時株主総会	7月31日	
	期末配当金	7月31日	
	中間配当金	1月31日	
	その他あらかじめ公告する一定の日		
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		

同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-707-843 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	https://www.general-packer.co.jp/

各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構(ほふり)をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構(ほふり)をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社へお申出ください。



包装システムのトータルプランナー
本社・工場 〒481-8601 愛知県北名古屋市府寺神明65番地
TEL. (0568) 23-3111 (代) FAX. (0568) 22-3222
東京営業部 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8
KDX神田北口ビル4F
TEL. (03) 3256-3891 (代) FAX. (03) 3256-3893

